

**(0) 番外編 2024年8月「読む会」の宿題—東インド会社とは？**

- 1月 羽田正『興亡の世界史 東インド会社とアジアの海』（講談社学術文庫、2017年11月）

**(I) 本を読む本**

- 2月 三宅香帆『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』（集英社新書、2024年4月）話題の本

- 3月 佐々木敦『ニッポンの思想 増補新版』（ちくま文庫、2023年12月）

浅田彰『構造と力』（1983年）～2023年の「ニッポンの思想本」をリアルタイムで読んできた佐々木（1964年生）による辿り直し。好評を博した2009年の旧著に2010年代以降を加える。

**(II) 哲学・思想・美学—過去から未来へ**

- 4月 伊藤直『戦後フランス思想—サルトル、カミュからバタイユまで』（中公新書、2024年4月） 「ニッポンの思想家」が何を前提に議論していたのか。「ドゥルーズを読む会」の参考になる。

- 5月 東浩紀『訂正する力』（朝日新書、2023年10月）

【参考書】『訂正する力』の完全版は東浩紀『訂正可能性の哲学』（ゲンロン叢書、2023年9月）。東のデビュー作『存在論的・郵便的—ジャック・デリダについて』（新潮社、1998年）以降の思想の展開については、2023年9月に専修大学で開催されたシンポジウムの記録『25年後の東浩紀—『存在論的・郵便的』から『訂正可能性の哲学』へ』（読書人、2024年5月）を参照。

- 6月 藤高和輝『バトラー入門』（ちくま新書、2024年7月）

現代のジェンダーとセクシュアリティ研究の方向性を決定づけたとされるジュディス・バトラーの名著『ジェンダー・トラブル』を中心に、バトラー思想を理解する日本初の一般書。

【参考書】岡野八代『ケアの倫理—フェミニズムの政治思想』（岩波新書、2024年1月）身体性に結びつけられた「ケアの倫理」の立場から「ケアに満ちた民主主義」の構築を探る。

- 7月 青田麻未『「ふつうの暮らし」を美学する一家から考える「日常美学」入門』（光文社新書、2024年4月）未開拓な分野の日本初の入門書。伝統的美学の脱構築であり、「民藝」運動を連想させる。

- 8月 河野哲也『アフリカ哲学全史』（ちくま新書、2024年7月）

日本初のアフリカ哲学の入門書。サハラ以南のアフリカ、カリブ海諸国で展開された哲学、アフリカ大陸での哲学に影響を及ぼしたアメリカやヨーロッパでのアフリカ人の哲学を解説。

**(III) 歴史・社会・倫理**

- 9月 麻田雅文『日ソ戦争—帝国日本最後の戦い』（中公新書、2024年4月）日ソ戦争敗戦から80年

- 10月 池上英洋『パリー—華の都の物語』（ちくま新書、2024年5月）カラー図版300点によるパリ探訪

- 11月 南川文里『アフターマティブ・アクション—平等への切り札か、逆差別か』（中公新書、2024年7月）【参考書】今井悠介『体験格差』（講談社現代新書、2024年4月）

- 12月 千葉聡『ダーウィンの呪い』（講談社現代新書、2023年11月）

ダーウィン進化論が生み出した「進化の呪い」、「闘争の呪い」、「ダーウィンの呪い」を別扱。

【参考書】鈴木紀之『ダーウィン—「進化論の父」の大いなる遺産』（中公新書、2024年7月）